

第11回川口市美術館建設基本構想・基本計画審議会 会議録

日時 令和2年2月28日（金）10時30分～11時30分

場所 川口市立中央図書館 7階 会議室

出席者 （委員） 利根会長 増田副会長 鈴木委員 山下委員 布施委員
森委員 稲川委員 原田委員 丸山委員
飯田委員 後藤委員 寺久保委員 吉岡委員
岡村アドバイザー
（事務局） 間中生涯学習部長 江原文化推進室長 青木館長
立花室長補佐 菅井主査 尾崎主任
（運営支援） 小石川スタジオ一級建築士事務所／永井代表

議事録

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

議題（1）川口市美術館建設基本計画（案）について

【質疑応答】

（会長） 議題（1）について事務局より説明があった。内容は過去議論をしてきたことだが、意見をいただきたい。

（委員） 二つのコメントと、一つの情報提供がある。

一つめとして、基本計画案全体についてだが、審議会の発言を非常に要領よくまとめられており、全体としてはこの内容でよい。2ページ目の「川口の美」についても、よくまとめられており、今後、様々なところで使われる定義かと思う。3ページの「収集保存」は、一つの提案と捉えていただき、今後、教育委員会の方で、方針や具体的な方法を詰めてほしい。8ページの「ものづくりエリアの事業活動」の創造支援の項に記載された「産業コーディネーター」は、重要なキーワードとなる。23・24年前、技術を産業化する「TLO」というキーワードが流行ったが、それと同じである。産業部局などと連携し、コーディネーターにはどういう人物が相応しいかというようなことも、今後、具体的に検討していただきたい。今回は基本計画の第一弾という段階だが、16ページの「川口らしさ」とは具体的にどのようなものか、「街並みのデザイン」とはどんなことが考えられるのか、今後、検討が必要と考える。

二つめは、40ページのスケジュールだが、今回はこの内容でよいが、基本計画案から計画にする段階でさらにつめて、基本設計、実施設計につなげて行ってほしい。

一つ付け加えたい。30ページに、「よりスピーディーな」という表現があるが、市有地に施設を作る場合は、スケジュールに沿って進めて行くわけだが、今回は、再開発や様々な社会経済の変化で先が読めない部分がある。骨格となるスケジュールを作りつつ、状況によって乗り換えられる選択肢を検討していただきたい。

最後に情報提供だが、ダヴィンチが亡くなって500年を記念した展覧会がルーブル美術館で開催され、先週末に終了した。欧米では、労働者の権利意識が強く、6時で終わりだから今日は締めますというのが普通だが、1・2万人の来場者が並んでいるのがかわいそうだということで、急遽、翌朝の8時まで営業することにした。館内での写真撮影も自由であり、ぜひ、こうした事例を参考に、弾力的な大人の対応というようなことを検討していただきたい。

(委員) この前の会議では、3カ所の候補地のうち、最も望ましいという場所があったが、審議会の答申には盛り込めないのか。建設場所が大事であるのに、何か状況が変わったのか。

(事務局) 川口駅周辺の再開発事業の中で建設するのが望ましいとのことであったが、民間の方が権利をお持ちのところを含めての再開発であることから、断定的な記載は、答申としては馴染まないと考える。また、再開発以外でも、スピーディーに建設できる適地が出てくれば、そこも検討できるようにというご意見も含め、このような記載としたものである。

(会長) 審議会として、勝手にここがよいと言うのは難しいと思う。

(委員) 旧丸井の建物があるエリア全体だと難しいが、一部の民有地が入れば実現できるとか、市有地単独での可能性はどうか。記載しづらいのはわかるが、市民は納得しない。場所が決まらなければ、設計もできないし、風評も心配である。積極的に検討すべきと思う。

(事務局) ご意見の趣旨は十分理解している。川口駅東口の候補地の面積は6,600㎡で、奥に公園用地だったところが約1,000㎡、合わせて7,600㎡ある。この土地をどのように活用していくのか。一部だけ美術館で占用するのか。これは候補地ではあるが、様々な要因を抽出しながら、今後、適地を決定していきたいと思う。

(委員) 委員の言う通りだが、基本計画の答申においては、敷地の選定は重要なミッションではない。私個人としては、具体的な候補地が示され、生々しい話になったのは、事務局の勇み足だったのかなと思う。基本計画の検討であり、本来は、敷地選定まで踏み込む段階ではない。基本設計の段階であれば、当然、敷地が決まらなければ議論にならないが、今回は、敷地についてはこの程度でよいと思う。

もう一つとしては、候補地が市有地だけで、どこにするかという議論については問題ないが、民間所有地を含めた話をするには不確定さがある。答申としては、この程度でよいのではないか。

(委員) 「3. 施設形態」のところで、A案・B案・C案・参考という4つの案が示されている。第3章の冒頭には、「川口駅周辺で美術館建設に適した用地の検討を進め」とあり、審議会の内容を踏まえると、それぞれの案がどこを指しているか推察できる。基本計画の答申で、ここまで具体的にらせることは驚きである。

(委員) 審議会では地図まで出したが、あれはただの参考だったのか。議会とか色々な事情があるから、候補地の一つだというのは納得するが、だからといって、建物や敷地に全く触れないのはどうだろうか。具体的に進めるときに、矛盾が生じるのではないか。候補地1とするには、財政上の問題、再開発や民間の問題があると思うが、スピーディーさが大事である。無難な表現とする事情は理解できるので、後は事務局にお任せするしかない。

(委員) 個人的には、ここまで位置付けたら、場所の決定はお任せしてもよいと思う。スピーディーという話が出たが、最後のページに「令和3年度以降に実施」とある。表現としてはこれでもよいが、4・5年の内に建設場所の決定をしないと、状況が変わってきて、答申の内容と齟齬が生じる可能性がある。表現は「令和3年度以降」で結構だが、事務局としては、どの程度までに決定したいと考えているのか。

(事務局) 場所の決定については、早急に決めていかないと次の段階に移れない。事務局としても、最大限努力したい。

(委員) 希望としては、令和8年になったら、再度このメンバーを招集し、改訂すべきかどうかを確認していただきたいと思う。

(事務局) 一定期間以上になれば、再度ご意見を伺いたいと思う。ただし、そうならないように早急に動きたい。

(委員) 計画案はよくまとめていただいた。今後は、運営コストの裏付けが必要だが、それを作っていくのは非常に大変である。私は県立近代美術館の応援団の理事をしているが、美術品を買う予算が、もう15年ほどほとんどない。この素晴らしいコンセプトを実現するため、市の財政に依存するだけでなく、独自の収益の方法を考えて、組み立てる必要がある。コンセプトを理解していただくことが一番大事だが、財政運営をうまくやらないと、そこで行き詰まる。うまく知恵を出して組み立ててほしい。

(委員) 今の意見に賛同する。世間的には、美術品を見せるのはとにかく赤字でやるしかしょうがないというイメージがあるが、よい美術品というのは全く減らない資源だ。うまく展開できれば、それが産業にもなり得る。最初から、赤字だ、市が金を出すのだ、ということではなく、いかにして資源を活用し、収益を上げ、川口を潤すかということ念頭に、運営していただきたい。

(委員) この基本計画の骨子は、単に美術館を作るというものではなく、今までの形とは少し違うものにして、文化でまちづくりをする、それと同時に、まちが文化を作るという、他に例のない構想である。偉大なコンセプトだが、何でこんなことをという意見も多々出るかもしれない。この建物（キュポ・ラ）も、30年前の人達が構想したものであり、当時は理解されなかったかも知れないが、今では住みたい街ナンバー1になった。実現するには様々な制約があるが、四半世紀先の人々が良いと思えるものを作っていきたい。「川口の美」には、先祖達が作り上げてくれた財産が沢山ある。歴史に根差したものが今に繋がり、生きてここにある。すごい、行きたいとなる。そして、そこで暮らすことができる喜びを川口の人達が享受できるようになればよいと思う。

(委員) 私は川口で生まれ育ち、これからも暮らしていく。このまちは便利で住みやすいが、外から見てよい街になるためには、文化度というものが非常に大事になる。先ほどの意見にもあったが、ニュース性のある美術館にして、本当の意味で魅力ある街にしたいと思う。

(会長) 他に意見がなければ、一部修正はあると思うが、この素案をもって、教育委員会に最終的に答申するということでよろしいか。

(一同) 異議なし。

(会長) 最後に、議題（2）として事務局から何かあるか。

(事務局) 特になし。

4 閉会